

今井中通信

教育目標

- ◎ 心身の健康
- ◎ 自他の尊重
- ◎ 生き甲斐の発見

各学年、それぞれの成長

校長 小林 格

早いもので、7月の声をきくこととなりました。3年生は、台風6号が接近する中、新横浜から京都駅に向かった6月上旬の修学旅行。奇跡的に定刻に出発した新幹線の中の子どもたちの姿を忘れることはできません。宿泊した先は祇園界隈の宿でした。旅館のすぐ近くには、浄土宗の総本山である知恩院があり、大きな三門を見上げると、千年の都に息づく精神文化の深さを改めて感じました。知恩院には「忘己利他（もうこりた）」という教え（この言葉自体は天台宗の最澄の言葉。知恩院の宗祖である法然上人は、比叡山で20年以上修行を積んだ高僧で、この教えが息づいているとのこと。）があります。これは「自分のことばかりにとらわれず、他者のために尽くす心を大切にすること」という意味です。この場所が醸し出す近辺を歩きながら、この言葉が、子どもたちの姿とも重なって見えました。今井中学校の日々の生活で仲間を支える姿、役割を果たそうとする姿、相手を思いやる姿が、「忘己利他」にもつながると感じました。

また、2年生は、学校の中心としての役割が徐々に増えてきました。委員会活動や部活動でのリーダーシップ、行事の準備など、1年生を支えながら自分たちの立ち位置を確かめている時期となっています。壮行会などでも見られたように「自分たちが学校をつくっていく」という意識が高まり、行動にも落ち着きが見られるようになってきました。そして、1年生は入学から3か月が経ち、学校生活にもすっかり慣れてきました。授業中の姿勢、休み時間の過ごし方、部活動への参加など、日々の生活の中で「中学生としての自覚」がさらに育ってきているようにみられます。

今月は、夏休み前の三者面談も行われます。三者面談は、単に成績や進路を確認する場だけではなく、「学校・家庭・本人」の三つの視点が一つになる貴重な時間です。学校での姿、家庭での姿、そして本人が感じていること。それぞれが少しずつ異なるからこそ、三者で向き合うことで、子ども自身が「自分を客観的に見つめる機会」になります。ここまでも触れてきましたが、特にこの時期は、1年生は中学校生活に慣れ、次の目標を考へる時期。2年生は学校の中心としての役割が増え、責任感が芽生える時期。3年生は進路を見据え、自分の将来を具体的に考え始める時期。と、大切な期間となります。保護者の皆さまには、お忙しい中、ご協力いただき感謝申し上げます。学校としても、子どもたちの成長をともに支えるため、大切な時間にしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

夏休みもまもなく始まりますが、まずはこの7月を丁寧に過ごしてほしいと思います。学習、行事、部活動、そして日々の生活。一つひとつの場面で、自分の心が動く瞬間を見つけ、次の成長につなげてくれることを願います。